―射撃部―――

□体育会名：関西学院大学体育会射撃部
□設立年：1956年（昭和31年）、創立年：1928年（昭和3年）
□2025年度会員数：31人（4年4人、3年5人、2年14人、1年8人）

――

□同窓倶楽部名：関西学院大学体育会射撃部OBG会
＊関西学院同窓会　公認団体
□同窓倶楽部通称：甲山射友会（KGRSC）
□設立年：1958年（昭和33年）
□会員数：415人（男性326人、女性89人）
＊物故者含む

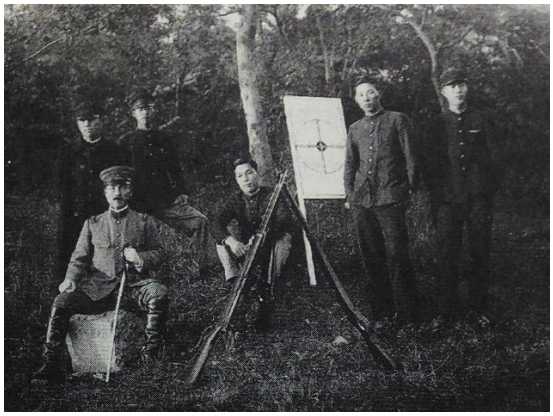
――

1925（大正14）年、陸軍現役将校学校配属令が出されて、男子の中等学校以上の諸学校に軍事知識の付与、軍事教練を実施することになった。関学中等部ではその年7月、歩兵大尉相葉健が着任する。27年度より文学部及び高等商業学部でも歩兵中佐古賀用六が配属将校として赴任した。射撃倶楽部が始動したのは、この軍事教練と無縁ではなかった。

【射撃倶楽部創立…時代は原田の森から上ヶ原へ】

26年、京大主催の第１回大学高専射撃大会が予期以上の盛会を極めたので、共に関西学生射撃連盟を組織しようという参加勧誘が関学に来た。これを受けた学生会長高橋順一郎と運動部長吉田保は27年10月、大阪朝日新聞社における連盟設立の会合に出席した。並行して古賀用六教官（陸軍中佐）のもと射撃研究会が計画された。同月、第１回関西学生射撃大会が開催。京大・関大・大阪外語が上位3校を占め他に数校が参加した。関学も京大・関大の活躍にも刺激され、射撃倶楽部創設準備が本格化した。

28年、射撃倶楽部創設。高橋前会長の意を引継いだ平山政市学生会長、守隨乙作運動部長が発起人となり部員募集を始めたところ、 早々に10余人が会し、その中から創立委員を互選して組織作りを始めた。5月19日、第１回部員総会を開催。役員として古賀用六中佐、職員委員は三浦武一教官に委嘱し、学生委員は片山太郎、竹代義松、中島辰雄、西松欣治郎、中村善二郎、高尾哲壮ら6人が就任した。念願の射撃部の前身、射撃倶楽部が始動した。関学の初試合は、12月3日、大阪城南射撃場で開催された関西学生秋季大会。優勝京大320点、2位関大307点、関学は200点で8位であった。


1928年ごろ、左端に三浦武一教官

29年、原田の森から上ヶ原へ校地移転（2月15日開始・3月31日完了）。

35年に京大主催・全国高専大会で吉田一正が個人で優勝。

37年には射撃規則（射撃距離）の相違により合併が滞っていた関東、関西連盟が射撃規則を改め、新たに東海支部を設けて関西・関東・東海による全日本学生射撃連盟が発足した。

38年10月、第13回秋季関西学生支部大会で乾優、第 3 回全国学生大会で前田時輔が共に優勝する。

42年の第13回明治神宮国民練成大会（のちの国民体育大会）大阪支部予選。関学は学生300米団体で優勝。当時、学生射撃とは別に防空競技に綜合演練（行軍・射撃・突撃）、「高等射撃」という競技があり、これには速射、立射、防毒的射撃、隠顕的射撃、移動的射撃の5種目があった。戦時色が強まる中、射撃競技も変化し、射撃得点（従来50点満点）基準に、駆け足10点、射撃30点、銃剣帯同による刺突10点（50点満点）の採点項目が加わるなど戦技競技となり、スポーツ射撃競技からかけ離れていった。国防の名のもと訓練中心の戦技競技の変化に訝る学生も多かったという。

43年10月21日、神戸市東遊園地で「出陣学徒壮行会」が実施された。関学、神戸商業大（現神大）、旧制甲南高（現甲南大）、旧制甲陽高商（後身校不在）から多数参加し、出陣学生、見送り学生併せて約1万人集まったとされている（学徒代表答辞は関学法文科 3 年の山本善偉氏）。この年、学徒出陣により関学の学生は減少し、詳細な記録は残されていないが射撃倶楽部の部員も戦陣に送りだされ不帰の人となった方が少なくないと思われる（94年調べでは本学の入営入隊者数463人とされている）。

43年、スポーツは体育と武道に分けられ射撃は武道として大日本武徳会に組み込まれた。文部省令で武道を除く多くのスポーツ、特に発祥が英米であるスポーツ部は廃止を強要され、戦争が激しくなると、各部は解散を余儀なくされた。射撃倶楽部も大会に使用する弾薬の確保が困難になり、一時払い下げられていた銃は軍に引き上げられ、学徒動員や繰り上げ卒業などにより部活動が行き詰まったと推測できる。状況は学生連盟参加校に共通であった。

終戦後の45年10月、GHQの通達により、学生連盟の上部団体である大日本射撃協会、文部省から学生射撃廃止の通告があった。この結果、部活動が禁止となる。戦前、剣道・柔道・射撃は体育ではなく、武道として分けられたのが障碍となった。

51年、射撃競技が解禁となると同時に同志社・立命館・関大が射撃部を復活させた。53年には関西・関東の大学射撃部が中心となり、日本学生ライフル射撃連盟（前全日本学生射撃連盟）が正式に結成、復活をみた。54年には阪大も復活したが、関学の復活にはさらに時間を要した。

【射撃部設立…射撃同好会から射撃部へ昇格、設立メンバーたちが礎を築く】

56年、関大・阪大OB（当時：北村達明阪大教授・大阪射協理事長）から強力な勧めを受け、上田勲、田村文二、坪田眞紀生、藤田幸一、下川弘、月村嘉利、辰巳由文ら約10人で

射撃同好会を結成した。結成にあたり、上田、坪田らは部室探しに奔走し、大学に隣接して洋服店を営む大高基男氏の店舗兼自宅を部室として間借りした。練習場所は上ヶ原浄水場の一部、5000坪ほどの空き地を、実弾を撃つ場合は大阪府警ピストル射撃場を使用することにし、準備に約 1 年を要し翌年の試合出場を目指した。

57年10月、静岡国体に田村文二が兵庫代表として▽SBR50m3P120 団体で3位入賞。11月、上田勲に対し日本学生ライフル射撃連盟の木梨信彦会長より、母校の射撃部復活を見事実現させ戦後学生射撃復活に多大なる貢献したことが認められ、表彰を受ける。

58年6月、大阪ライフル選手権で田村文二が▽自由 3Ps 個人で優勝。10月の富山国体で月村嘉利が兵庫代表として▽AR10m3P120 団体優勝、▽AR10mP40 団体で2位、▽AR10mK40 団体で3位に。辰巳由文が奈良代表として▽AR10mP40 団体優勝した。11月には日本学生ライフル選手権で田村が▽AR 自由銃 10m3P60 個人で優勝した。

59年は5月に関西支部春期ライフル大会で▽FAR 団体優勝。11月には関西支部秋期ライフル大会で坪田眞紀生らの活躍により総合団体優勝(関西制覇)を果たして同志社の連勝を12で止めた。11月、全日本学生選手権で ARF 団体準優勝、総合団体 4 位。坪田が▽AR 自由銃 10mS20 個人で優勝した。10月の東京国体では坪田・下川弘らが兵庫代表として▽AR10m3P120 団体で準優勝、▽AR10mP40 団体で 3 位入賞した。

60年2月、上田勲が日本ライフル射撃協会から60年ローマ・64年東京五輪強化チームの幹部指導者として要請を受けた。4月には前年度の戦績が評価され、射撃同好会から射撃部に昇格。豊倉三子雄教授(経済)を初代部長に、大高基男元兵庫県ライフル射撃協会理事長・副会長を参与に迎え、体育会射撃部が復活した。同年、京大も射撃部を復活させた。

実は56年に射撃部が復活(設立)した際、当時の現役部員が戦前の射撃部OB諸兄に部復活の報告と現役部員への支援を要請した。だが彼らからの返事は一様に、「我々は戦前の射撃だから、戦後の射撃とは関わりがない」と言い切られた。彼らは口を閉ざし理由は明らかにしなかったが、辛く、苦しく、悲しい戦争体験、部員・親友・知人を失った喪失感、応召され愛する射撃を戦争の具に使った無念さ、そして戦争に加担した重責から過去を断ち切ったのではなかろうか。戦後の学生には戦前を引きずって欲しくない、新生射撃部の発展を願う一心からかもしれない。軍事教練の系譜をもつ射撃倶楽部。戦争末期には学生たちの意に反して戦技競技化の様相を呈したが、戦後復活した新生射撃部は学生によるスポーツ射撃競技である。諸先輩方の想いを胸に、現役部員は射撃に精進した。

60年11月、全関西学生ライフル選手権で▽AR 団体優勝、▽SBRP20 個人で山本知宏、▽ARF3PS 個人で桑田茂樹が優勝した。全日本学生選手権(以下「全日本」)では FAR 団体5位。11月3日の覇業交歓において池内信行初代体育会会長より坪田眞紀生が表彰を受けた。

61年5月、関西学生ライフル選手権▽FAR K20 個人で西川佶が優勝。11月、関西学生ライフル選手権で▽FAR P20 個人で加藤邦雄が優勝。全日本でも桑田茂樹が▽FARK20 個人で優勝、FAR 団体6位。

62年6月、関西新人学生ライフル選手権（以下、「新人戦」）で菊池竜勝が▽ARP20 個人で優勝。同年夏には学内射場が完成、10月1日に開場した。11月、全関西学生ライフル選手権で桑田茂樹が▽FARS20 個人で優勝。全日本では桑田が▽SBR50m3P60 個人で8位、▽SBR 団体で7位だった。

63年5月、関西学生ライフル選手権で太宰正彦が▽SBR 個人で、播磨久明が▽FAR 個人で優勝。6月の第 1 回師尾杯争奪全関西学生ライフル立射選手権で内田昌之が▽FAR 個人で優勝した。

64年5月、春季関西学生ライフル選手権（以下、「春関西」）で村上裕一が▽FA 個人で優勝。全関西立射選手権でも村上が▽FAR 個人で優勝した。

10月の新潟国体では堀口貞司が兵庫代表として▽FAR 10m3P60 個人で4位。11月の秋季関西学生ライフル選手権（以下、「秋関西」）では総合団体優勝を飾り、▽FAR 団体優勝、▽SBR 団体2位。播磨久明が▽SBR3 姿勢個人及び膝射個人で、村上裕一が▽FAR 三姿勢個人で優勝した。11月の全日本は総合団体4位、▽SBR 団体 5 位、▽FAR 団体は準優勝。菊池竜勝が▽SBRP20 個人で 2 位に入った。同月、全日本学生東西対抗戦で村上が▽FAR 三姿勢個人及び立射個人で優勝した。

65年は5月の春関西で総合団体優勝。10月の秋関西では田中泰次が▽SBR S20 個人で優勝。全関西大会総合団体の結果は春1位、秋4位だった。

【元ラガーマン、関西制覇 3 回、国体出場、全日本学生で準優勝し関学を牽引】

66年5月、春関西▽FAR で団体優勝。出口明治が▽SBRK20 個人で優勝、中島憲治が▽FARK20 個人で優勝した。11月、秋関西で徳野賢輝が▽SBRP20 個人で優勝。全日本では徳野が▽SBR50m3P60（個人）で9位、▽SBR 団体5位。中島が▽AR10m3P60 個人で6位、AR 団体3位、総合団体4位に入った。全関西総合団体の結果は春2位、秋2位だった。

67年5月、春関西で FAR 団体優勝。中島憲治が▽FAR3P 個人で優勝。11月の秋関西は赤江福造が▽FARP20 個人で優勝。全関西総合団体の結果は春3位、秋2位だった。

68年5月、春関西で中島憲治が▽FAR3P 個人で優勝。6月の新人戦で村田信行が FAR 個人で優勝。10の福井国体に中島が大阪代表として▽SBR50m3P60 個人8位。11月の全日本では中島が▽SBR 50m3P60 で準優勝、SBR 団体4位、AR 団体7位、総合団体6位となった。また原戸一郎が▽SBRS20 個人で優勝。全関西総合団体の結果は春 2 位、秋 2 位であった。

69年は学園紛争が激しくなり、全学封鎖にまで発展、体育会の運営も危ぶまれた時期であった。そんな中で5月、中島憲治が体育会功労賞を受賞した。元ラガーマンで在学中、関西制覇 3 回、国体出場、全日本学生ライフル選手権準優勝など数多くの好成績が評価された。また射撃協会の強化指定選手候補に挙がり、4年時は主将として部をよく統率した。後に射撃部監督（85～95年）を経て、OBOG会長に就任（2001～20年）した。この年10月の長崎国体では原戸一郎が兵庫代表で▽SAR 10m3P60 個人7位、▽SAR10mS40 個人9

位。堀家孝夫が▽SSBR50mP60 個人19位。

70年は10月の岩手国体で原戸一郎が兵庫代表として▽AR10m3P60 個人 8 位、▽AR10mS40 個人で 11 位。なお全関西総合団体の結果は69年春が記録不記載、秋8位。70年は春大会中止、秋は記録不記載であった。

71年3月、原戸一郎が体育会功労賞を受賞。2年時に関西制覇、国体代表でも活躍したことが評価された。5月の春関西では本山昇(96～2015年監督、16～25年総監督)が▽SBRP20 個人で2位。10月の和歌山国体に村田信行が大阪代表として▽AR10mP60 個人に出場(15位)した。全関西総合団体は春5位、秋6位だった。

72年は10月の秋関西で高岡英雄が▽ARS60 個人で優勝。全日本では高岡が▽AR10m3P60 個人で5位に入った。全関西総合団体は春7位、秋6位だった。

73年6月、新人戦で黒上義文が AR 個人で優勝。11月の全日本で高岡英雄が▽AR10mS60 個人で9位に。全関西総合団体は春5位だった。

74年から78年は低迷が続いた。74年5月の春関西で総合団体6位となり、1部から2部へ降格。この年は10月の秋関西で総合団体5位となり2部優勝、1 部に復帰を果たした。75年11月には黒上義文が全日本の▽SBR50m3P60 個人で10位。76年10月の秋関西で井上隆夫が▽SBRS20 個人で優勝。11月の全日本で三木田俊之が▽SBR50m3P60 個人9位に入るなどしたが、77年10月の秋関西において2部降格した。

翌年から、高校未経験で入部した射手が大活躍をみせる。78年5月の全関西混合戦▽SSB50mP60 個人で小林恭裕が準優勝。小林は6月の春関西▽AR10mS40 個人で優勝、▽SSB50m3P60 個人でも3位入賞。小林らの活躍により2部優勝し、1 部復帰を果たした。小林はこの成績が評価され、日本学生選抜の SB 部門 A チームの西日本代表として8月にフィリピンでの海外親善試合へ遠征。帰国後の10月、秋関西の▽SSB50m3P60 個人と▽SB立射個人で優勝、▽ARS40 個人でも準優勝した。11月の全日本▽SBR50m3P60 個人でも9位入賞している。11月には体育会より海外遠征記念トロフィーを受贈。

「射撃というスポーツは、個人スポーツのように思われる場合があるがそうではなく、一人では決して上達しないし、又意味もない。私がここまでやって来られたのは、コーチ並びに諸先輩のご指導や同輩の協力のお陰である、また私を支えてくれたのは、体育会のモットーである『ノーブル・スタボネス』とチームメイトからの期待であり、反面ではプレッシャーになったが、それに勝る『For The Team』に繋がった」(小林談)

なおこの年始まった第1回総合関関戦は善戦むなしく惜敗。関学は総合成績8勝15敗3分で惨敗を喫した。

小林は79年5月、全関西学生混合戦▽SSB50mP60 個人、西日本選手権(以下「西日本」)▽SSB50m3P60 個人で優勝。6月の近畿大会 SSB50m3P60(30 歳未満)個人では準優勝だったが、同月の春関西▽SSB50m3P60 個人、10月の秋関西▽SSB50m3P60 個人でも優勝。4 年間の最後を飾る11月の全日本 SSB50m3P60 個人でも圧巻の活躍をみせ、1 位に僅か 1 点差の準優勝。優勝は関大の片山和俊選手で、ベスト10の上位2名を関

西勢が占め、並み居る関東の強豪を抑えての準優勝は千金に値する。

同月、兵庫県からスポーツ賞を受賞。関学の歴代選手のなかでも小林は特筆すべき存在で、3年春から頭角を現し、主要な公式試合において優勝 7 回、準優勝 4 回の輝かしい戦績を収めた。卒業時には日本学生ライフル射撃連盟から学生十傑第5位に選ばれ、体育会からスポーツ功労賞を受賞した。

同じ11月の新人戦では、創部初の新人戦 AR 団体優勝。足立由紀子が▽ARS40 個人で優勝、川口直子が 7 位入賞した。足立は女子部員としての初優勝であった。

この頃より、他大学も含め女子射手が増加し、関西学生連盟においても新人の約 1 割が女子部員であった。女子部員は、男女混合種目である射撃競技において先輩・同期・他大学と強豪男子選手に競り勝つことに醍醐味を感じていたようである。彼女らの活躍を機に関学にも女子部員が目立ちはじめた。11月、石井信夫が関西学生連盟の幹事長に就任(関学初)。

小林の卒業後、80年5月の全関西混合戦は ARS40 団体 3 位、▽ARS40 個人で10位が最高。10月の秋関西は SBR 団体 6 位・AR 団体 7 位・総合団体 6 位と振るわず戦力低下が著しくなる。

81年10月、秋関西で豊島茂長(現 OBG 会長、2020 年～)が SBP20 姿勢別伏射部門個人で優勝。

82年4月、第2代部長に安保則夫教授(経済)が就任。

84年3月、射撃部初のOGが誕生。その田村美知は現役時代、レギュラーとして活躍。卒業後はコーチを務めた。

87年10月、秋関西 SB 伏射個人で住友一明が優勝。長い低迷のなかでの優勝であった。▽10mS60MW 団体6位。住友は11月の新人戦▽ARS60 個人でも4位入賞。88年3月の卒業時に体育会功労賞を受賞した。4年時秋関西の SB 伏射個人優勝が評価された。

【昭和から平成へ…部員数激減期を経て、部員が増え再び活気づく】

89(平成元)年 4 月、安保部長が英国留学のため、米田満先生が部長に就任(～91年)。4 月、全関西学生混合戦▽ARS 団体 3 位。11 月、オールミッション大学定期戦(以下「オールミッション」)▽ARS 団体優勝、伊藤光明が▽ARS 個人2位。

90年、広瀬宗孝が三四郎杯受賞。入部以来、同学年 1 人という状況の中、多くの部員獲得を果たし射撃部の維持、発展に貢献したのが主な受賞理由。90年には1年2人、2年1人、3年2人、4年3人と4学年で 10 人に満たず部存続が危ぶまれたが、91年に新人13人が入部し、盛り返した。

【低迷していた SB 陣が復活、関西制覇を達成】

91年5月、春関西で水谷潤が▽AR10m3P60 個人で優勝、ARS60 で 4 位入賞。水谷は10月の秋関西で▽男子 SBP60、AR3P60、ARP60 の3部門を制覇。92年3月の卒業時に体育会功労賞を受賞した。4 年時の春・秋関西選手権個人制覇をはじめ数々の好成績を収め、主将としても部員をまとめ部全体に活気を与えたことが評価された。

92年度入試からスポーツ推薦が導入され、商学部15人、社会学部16人の合格者を確

定。射撃部は推薦対象に至らなかった。93年時点で SB 射手は 1 人のみ。翌年2人となったが、SB 陣は低迷していた。95年春関西、秋関西から各校ともに女子射手が増加し、新たに10mAR 団体種目で男子団体、女子団体が設けられた。

96年になると SB の陣容も整い、春関西▽50m3×20 団体で見事 3 位。4月の関西学生 SB 選手権▽50m3×20 で団体優勝（関西制覇、越智忠裕・藤井美由紀・藤本真啓）を飾った。関西学生 SFR 3P120 オープンマッチでも藤本が優勝、藤井（2001年よりコーチ）が準優勝、ワンツーフィニッシュを決めた。藤井は6月の西日本▽SFR3P60 個人でも3位入賞。団体4位。

「8月から9月、約10日ほどだったと思いますが、韓国テヌン射撃場で現地のコーチの指導を受けました。当時学連から射撃留学という形で外国に技術向上を目的とした学生の派遣を行っていて、そのメンバーに選んでいただきました。私は SB で参加しました。現地の学生との交流試合もありましたが、私は SB を所持して一年くらいでしたし、他選手より経験もなく、じっくり基礎からみていただきました。学連から行ったということで、その後2回くらい指導者講習会の学生コーチで参加し、エアライフルで主に初めて三姿勢や伏射をやる学生を指導しました。」（藤井談）

9月の秋関西は▽SFRP60 団体4位。▽AR3P60 個人で藤井が3位。SB 射手の陣容も整い、50m60、50m3×20 とも個人で7人が出場した。11 月の覇業交歓では部が関西制覇団体、藤本が関西制覇個人で表彰。さらに池内杯も受賞し創部 40 周年を飾った。団体・個人の戦績と部の雰囲気の良さ、結束力が評価された。

97年春関西は SFR3P60 団体 3 位（藤本真啓、塩谷志保、藤井美由紀）、▽ARLS40（個人）では藤井がファイナル8位で入賞。6月の西日本学生 SFR3P60（個人）で藤井が3位。2年連続個人3位に輝いた。

98年は SB メンバー4人と次第に減少し、西日本 50mP60MW 団体 6 位、50m3×20MW 団体 5 位と戦績が低下しだした。

98年9月、安全管理不足により京都府園部町で部員が車上荒らしにあい、トランクに積載していた SB 弾一式も盗難被害に遭った。幸い盗まれた弾薬は犯罪に使用されることなく不明弾として処理されたが、事件としてスポーツ新聞をはじめ一般紙でも報道され関係各方面に影響を与えた。当事者の部員は書類送検されクラブも謹慎処分。この事件を契機に部内での銃及び弾薬の管理が徹底化され、関西各校の中でも最も厳しい管理基準を設けるに至った。

99年4月、射撃部第2代部長　安保則夫教授が総合政策学部の学部長（任期は 2003 年 3 月）に就任。それに伴い射撃部第3代部長に村田治教授（経済）が就任した。

西日本▽ARS60 団体10位、▽ARLS40 団体9位、▽SFR60 団体5位、▽SFR3P60 団体6位。秋関西▽ARS60 団体12位、▽ARLS40 団体6位、▽SFR60 団体5位、▽SFR3P60 団体5位に終わり、SB 射手は6人在籍していたが2年連続で成績はさほど振るわなかった。

【2005年からデジタルピストル大会がスタート、関学はピストル競技で健闘】

2000年、従来使用されてきたポンプ式の空気銃が圧縮空気式へ移行。射撃コートやズボ

ンの劇的な改良により学生連盟の射撃レベルは一気に上昇した。
　01年、SB 射手3人、02年、SB 射手1人となり、しだいに関学は SB 競技から距離をおくようになっていった。
　03年4月、安保教授（射撃部第2代部長、前総合政策学部学部長）が体育会長に就任。
　04年、部員数が激減した。1年1人、2年2人、3年5人、4年1人となり、4学年で10人に満たず再び部存続が危ぶまれたが、その後2年連続で10人前後の新人を迎え盛り返した。
　05年春関西はデジタルピストル射撃選手権と同時開催となり、▽10mDPS60M（個人）で神谷亮圭が優勝。11月の覇業交歓では関西制覇個人で表彰された。
　06年、男女混合であった学生連盟の公式試合が男女別の総合団体となった。各大学の女子部員（射ガール）の急増が背景にあった。

　07年春関西は▽BPD10mS60M 男子団体3位（白井雄司、前田雄司、奥岡壮吾）、▽BPD10mS40W 女子団体2位（棚田美香、秦祥子、多田和泉）、▽BPD10mS40W（個人）で棚田がファイナル4位入賞した。SB 射手は2人。6月には麻疹により2週間全学休校。クラブ活動も停止に。
　秋関西▽男子 BPDS60M 団体2位（白井、前田、竹下惣平）、▽男子 BPDS60M（個人）で白井がファイナル7位。▽女子 BPDS40W 団体3位（秦、棚田、多田）、▽女子 BPDS40W（個人）で秦がファイナル7位（本戦8位）入賞。SB 射手は2人だった。11月の新人戦では棚田が▽AR10mS60W（個人）でファイナル優勝。▽10m3×20MW（個人）で白井が5位入賞。

　08年春全関は▽BPD10mS40W 団体優勝（多田、棚田、秦）。女子 BPDS40W（個人）で秦がファイナル4位、棚田がファイナル6位入賞。この結果により棚田、秦が五輪出場選手対象講習会の招待を受ける。西日本でも▽AR10mS40W 団体3位（多田、棚田、中上志穂）。これまで同志社、立命館、関大3校に大きく水をあけられていたが、一角に食い込んだ。
　秋関西でも▽10mBPDS40W 団体2位（棚田、秦、鈴木沙智絵）、▽10mBPDS40W（個人）で棚田がファイナル2位入賞。SB 選手は2人だった。このほかオールミッション▽10mS60 団体2位。全関西ライフル射撃選手権▽10mS60MW（個人）で大野きりこがファイナル2位入賞。秋季全関西学生ライフル射撃三姿勢戦▽AR10m3×20MW（個人）で山下良祐が優勝、棚田が4位、鈴木が8位に入賞した。

【関学初、全日本女子個人制覇、春関西女子団体制覇、春秋関西連続女子個人制覇】
　09年4月、第3代部長の村田治教授が経済学部の学部長に就任。
　そして春関西▽AR10mS40W で悲願の団体優勝（棚田、鈴木、大野）。女子団体として創部初の快挙だった。また▽AR10mS40W（個人）で大野が優勝。ライバルの同志社、立命館、関大には多くのスポーツ推薦入学者がいたが、関学は不在。また射撃場の設備も他校より劣り体制的にも不利な状況。その中での優勝は特筆すべきものがあった。

「スタートラインは同じ。（団体メンバーは）いつも良きライバルだからこそ、ここまでやって来られた。」（鈴木談）。棚田は就職活動による練習不足でやや不安があったが、いったん射座に入ると試射の間、体のブレやフォームの状態に神経を研ぎ澄まし、持ち前の集中力で高得点を記録した。関学で唯一の経験者である大野は、周囲からのプレッシャーにも動じず淡々としたブレのない射撃で、個人部門優勝を果たした。SB 選手は2人だった。このほか▽女子 DPS40W 団体準優勝（鈴木、秦、棚田）、▽女子 DPS40M(個人)で鈴木がファイナル4位、棚田がファイナル5位、秦がファイナル6位に入賞した。

西日本では▽女子 10mS40W 団体3位（棚田、鈴木、秦）。秋関西は▽男子 BPS40M 団体3位（前田雄司、栗巣仁也、田中俊博）。▽女子 BPS40W 団体2位（棚田、鈴木、秦）、▽女子 DPS40W(個人)で秦がファイナル優勝、棚田がファイナル4位、鈴木がファイナル6位入賞。▽男子 10mS60M(個人)で宮野直紀がファイル7位入賞。▽女子 10mS40W 団体3位（大野、棚田、鈴木）。▽AR10mS40W（個人）で大野が優勝。SB 射手は2人だった。

秋季全関西学生三姿勢戦▽AR10m3×20MW（個人）で宮野が優勝。小和田健太が6位、山下が7位入賞。▽AR10mP60MW（個人）で宮野が2位、向井が3位、山下が8位入賞。

そして全日本において、大野が▽AR10mS40W（個人）でファイナル優勝。全国制覇を達成した。オールミッション定期戦でも総合団体3位。

この年の大野の活躍は目を見張るものであった。西日本、春・秋の全関西女子で連続関西制覇を達成。全日本の予選では1位に2点差で2位につけていたが、ファイナルではすべて10点台をマークして予選1位の清水（中央大）に2．2点差をつけ見事、全日本制覇を成し遂げた。大野は高校1年から射撃を続け、やめたいと思ったことはないと語る。成績を残すことよりも、とにかく撃つことが好きな一女性射手である。その気持ちが彼女を全日本制覇に導いたのは間違いない。大野をはじめ女子部員が AR、BPD で活躍した一年であった。

10年春関西は▽BPD10mS40W 団体2位（鈴木、多田、池須友香）、▽BPD10mS40W（個人）で鈴木がファイナル3位、小畑友佳里がファイナル5位、前畑美紗子が8位入賞。西日本は▽10m S40W 団体3位（前畑、小畑、鈴木）、▽女子 10mS40W（個人）で鈴木がファイナル7位入賞。▽BPD10mS40W（個人）で前畑がファイル3位入賞。SB 射手は不在。

秋関西は▽女子 10m S40W 団体3位（大野、前畑、鈴木）。大野は惜しくも9位に終わった。▽女子 10mBPDS40W 団体3位（鈴木、前畑、小畑）、▽女子 10mBPDS40W（個人）鈴木がファイナル6位、前畑がファイナル7位で入賞。SB 選手は2人。女子部員が活躍した。

オールミッションでは総合団体準優勝。▽50m3×20MW（個人）で宮野が2位入賞。秋季全関西学生三姿勢戦▽10m3×20MW（個人）で宮野が優勝。前年度に続き連覇を飾った。覇業交歓において大野が全国制覇個人、宮野が関西制覇個人で表彰された。

11年は春関西▽10mDPS40M で男子団体優勝（高橋皓太朗、森田薫大、生嶋顕）、▽男子 DPS40M(個人)で高橋がファイナル3位，生嶋がファイナル4位入賞。▽10m DPS40W

女子団体2位（前畑、多田、小畑）、▽女子 DPS40M(個人)で小畑がファイナル5位、三田理絵子がファイナル7位、前畑がファイナル8位入賞。

秋季全関西は▽10mDPS40M 団体優勝（高橋、森田、生嶋）。秋季全関西学生デジタルスポーツピストル射撃選手権▽10mDPS40W で団体優勝（多田波留果、小畑、前畑）。前畑が 10mDPS40W（個人）で優勝。創部初の男女アベック団体関西制覇を成し遂げた。SB 選手は1人だった。覇業交歓で団体関西制覇の表彰及び池内杯を受賞。秋季全関西学生三姿勢戦は、前畑が▽10m3×20MW（個人）で2位。生嶋が5位、笠原卓也が8位入賞。

12年、大野が卒業にあたり体育会功労賞を受賞。1 年時から活躍し、2 年時は春・秋全関西で連続関西制覇。さらに全日本制覇を成し遂げた実績が評価された。

「重みのある賞を頂いて、とても嬉しく感じます。頂いた賞に恥じぬよう、関学 OG として社会に貢献していけたらと思います。」（大野談）。

【高校経験者が手本となり、部全体の活性化に繋げる】

12年春関西は▽男子 10mDPS40M 団体3位（澤下俊亮、生嶋、高橋）、▽男子 DPS40M(個人)で生嶋が8位入賞。▽女子 10mDPS40W 団体2位（雪本千尋、三田、田尻美都）、▽女子 DPS40W(個人)で田尻が4位、薮内那奈が6位入賞。SB 選手は不在。秋関西は▽男子 10mS60M 団体3位（笠原、生嶋、小武家裕介）。▽10m S60M（個人）で1年の小武家（高校経験者）が3位入賞。▽女子 10mDPS40W（個人）で橋本美佳が 4 位、▽男子 10mDPS40M で高橋が8位入賞。

全日本学生では▽10mARS60M 団体7位、▽男子 10mS60M（個人）で小武家がファイナル8位に入賞した。1 年ながら当時4年の佐藤（日大）とのシュートオフに僅差で勝利。ファイナルへの切符を手にしたが、上位陣との点差は大きく進撃は8位で幕を閉じた。全関西新人戦（男女混合）▽10mS60MW は団体4位（景山拓朗、小武家、高木悠）。10mS60MW(個人)で小武家がファイナル8位入賞。▽10mDPS40MW（個人）で三木大輔が3位、山口彰紀が8位入賞した。

この年は射撃部に新しい血が注ぎ込まれたかのような一年だった。初めてスポーツ推薦として入部した小武家。その実力は本物であり、以後の関学を変える新芽のような成績を修めた。

13年春関西▽男子 10mS60 団体は9校中4位（小武家、田中裕也、景山）、▽男子 10mS60（個人）で小武家がファイナル6位（本選3位）入賞。ISSF（国際射撃連盟）のルール改定によりファイナルの在り方が大きく変わった。本戦である程度の成績を残してもファイナルで成績を修めなければ意味がなくなってしまう中、力を出し切れなかったようだった。▽男子 10mBDS40M 団体は9校中2位（山口、三木、生嶋）、▽男子 10mBDS40M（個人）で三木がファイナル4位、山口がファイナル6位入賞。▽女子 10mS40 団体は5位（橋本、泉万祐子、薮内）、▽女子 10mBDS40W（個人）で橋本がファイナル6位賞した。学生大会のメインがライフルである中、関学の入賞者3人がピストル競技をメインにしようとした試合でもあり、専門化の

兆しが感じられた。SB 射手不在の為、男女とも総合団体の出場資格なし。

西日本は▽男子 10mS60(個人)で小武家がファイナル6位入賞。▽男子 BPDS40M 団体5位。▽女子 10mS40W 団体7位、▽女子 BPDS40W 団体4位(田尻、泉、橋本)。▽女子 BPDS40W(個人)で橋本がファイナル3位入賞。男女とも総合団体出場は出来なかったが、▽男子 50mP60M(個人)16位で唯一、小武家が出場した。

第36回総合関関戦では悲願達成ならず 1 点差で黒星を喫した。スポーツ推薦で固められた関大に善戦し、近年の関関戦で一番勝利に近かった試合であっただろう。

西日本では▽女子 10mDPS40W(個人)で橋本がファイナル3位入賞。秋関西は▽男子 10mS60M 団体で10校中3位(景山、小武家、生嶋)、▽男子 10mS60M(個人)で小武家がファイル8位(本戦7位)入賞。SB 射手は小武家のみで、▽男子 50mP60M(個人)19位、▽男子 50m3×40M(個人)14位の成績だった。▽男子 BPDS40M 団体は10校中5位(三木 、山口、生嶋)。▽男子 BPDS40M(個人)で三木がファイナル3位入賞。▽女子 10m S40W 団体5位(泉、高木悠、薮内)。▽女子 10mDPS40W 団体〇位(橋本、泉、田尻)、▽女子 10mDPS40W(個人)で橋本がファイナル4位入賞。男女とも総合団体の出場資格なし。

全日本は▽男子 10mS60M 団体22校中11位(太田、小武家、景山)。▽男子 10mS60M(個人)で小武家24位。▽女子 10mS40W 団体22校中18位(泉、薮内、植田百々子)。新人戦(男女混合)は▽10mS60MW 団体6校中4位。▽10mP60MW(個人)で石川大地が7位入賞。▽10m3×20MW(個人)で景山が 2 位、高木が5位入賞。▽10mBPDS40MW(個人)で待場直宏が2位入賞。

14年の春関西では男子が念願の総合団体を結成。4位だった。

団体戦の内訳は▽10mS60 団体6位(日野裕允、小武家、伊藤良平)。▽50mP60 団体 4 位(日野、景山、小武家)。▽50mP60(個人)で景山が7位(本戦4位)入賞。▽50m3×40 団体3位(小武家、日野、景山)、▽50m3×40(個人)で景山がファイナル4位(本選8位)、小武家がファイナル7位(本選3位)入賞。景山ほど能勢射場にこもり、射撃に打ち込んだ選手はいない。その努力が実りようやくあと一歩でトップ 3 という所にまできた。高校未経験者で且つ、短期間でここまでに入れる射手はそういないだろう。▽男子 10mBPD40M団体は10校中2位(待場、三木、山口)。▽男子 10mBPD40(個人)で待場がファイナル6位入賞。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mS40W 団体7位(織野友嘉、小堀阿子、高木)。▽10mBPD40W団体5位(泉、橋本、植田百々子)。▽10mBPD40(個人)で橋本がファイナル4位(本選4位)入賞。女子 SB 部門では▽50mP60W(個人)で高木が12位、▽50mP60W(個人)で高木が13位。公式試合初出場、SB 射手では紅一点だった。

西日本学生では男子が総合団体準優勝。春関西で男子総合団体出場が復活して、早くも素晴らしい結果を出した。▽10mS60 団体4位(景山、小武家、待場)、▽10mS60(個人)で小武家が8位入賞。▽50mP60 団体2位(景山、日野、小武家)、▽50mP60(個人)で景山

が2位、小武家が7位入賞。▽50m3×40 団体2位（小武家、日野、景山）、▽50m3×40（個人）で景山が4位、小武家が6位入賞。

秋関西でも男子が総合団体準優勝。（総合順位：関大、関学、京大、同志社、甲南大、京産大）。団体戦の内訳は▽10mS60 団体5位（景山、小武家、待場）。▽10mS60（個人）で小武家がファイナル8位入賞。▽50mP60 団体2位（景山、日野、小武家）、▽50mP60（個人）で景山がファイナル2位、小武家がファイナル8位入賞。▽50m3×40 団体準優勝（小武家、日野、景山）、▽50m3×40（個人）で小武家が優勝（本戦8位）。関大に惜しくも優勝は譲ったものの準優勝となり、京大、同志社を見事退けた。個人部門では小武家、景山の2人が牽引。またインカレの総合団体枠を獲得することが出来たのは快挙であった。

小武家はここ一番という所でエンジンのかかりが遅く、ファイナルではいつも後半に追い上げるが追いつききれない展開が目立っていた。しかしこの大会は滑り出しからよく、常に1。2位をキープ。最後も逃げ切る形でフィニッシュすることが出来た。彼はこの3年間でかなりメンタル面に於いて成長を遂げたようだ。

▽男子 10mAPS60M（個人）で三木が2位入賞。▽男子 10mBPDS40M 団体3位（待場、三木、山口）。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mS40W 団体5位（泉、小堀、織野）。▽10m BPDS40 団体3位（有間文香、橋本、藪内）。▽10mBPDS40（個人）で橋本がファイナル3位（本戦7位）、川崎友加里がファイナル7位（本戦6位）入賞。春関西に続き高木が▽女子 50mP60W（個人）で16位、▽女子 50m3×20W（個人）で14位と健闘した。

全日本では男子総合団体で出場が叶った。名だたる強豪8校と争い7位と善戦した。団体戦の内訳は▽10mS60 団体23校中8位（待場、山村祥真、小武家）。▽50mP60 団体12校中10位（日野、景山、小武家）。▽50m3×40 団体12校中6位（小武家、景山、日野）。▽50m3×40（個人）で古武家が13位。女子は▽10mS40 団体17校中11位（小堀、薮内、高木）。全日本においても高木が▽SB50m3×60（個人）で紅一点として活躍した。

新人戦（男女混合）では▽10m3×20MW（個人）で柿本智彦が7位、▽10mAPS60MW（個人）で三木が3位入賞。

15年春関西も男子総合団体で準優勝（総合順位：関大、関学、同志社、京大）。▽10m S60 団体4位（伊倉正敏、山村、小武家）。▽10mS60（個人）で小武家がファイナル8位入賞。▽50mP60 団体準優勝（景山、小武家、日野）。▽50mP60（個人）で景山がファイナル3位（本戦6位）、小武家がファイナル4位（本戦3位）。▽50m3×40 団体準優勝（景山、小武家、日野）。▽50m3×40（個人）で小武家がファイナル3位（本戦2位）、景山がファイナル5位（本戦6位）入賞。▽10mAPS60（個人）で三木が優勝、▽10mBPDS40 団体準優勝（三木、待場、新海翼）、▽10mBPDS40（個人）で待場がファイナル2位（本戦8位）、三木がファイナル4位（本戦4位）入賞。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mS40W 団体5位（小堀、高木、滝口眞帆）。▽10m

BPD40 団体2位（髙橋南穂、有間、川﨑）。▽10mBPD40（個人）で髙橋がファイナル5位（本戦5位）、有間がファイナル6位（本戦6位）、川﨑がファイナル8位（本戦8位）入賞。▽SB50mP60W（個人）で高木が9位。高木は SB メンバー紅一点でこの春も活躍した。

7月の学生選抜は、総合順位が明大、東洋大、日大、関大、法大、関学。全国に数ある大学射撃部の中から6校しか出場できない学生選抜大会に出場できたことは、実力を評価して頂いた結果で見事であった。6校中、関西からは関学と関大の 2 校。▽50m3×40 団体では5位となったが、総合点で法大にあと一歩及ばず6位に甘んじた。▽50m3×40（個人）で小武家がファイナル8位入賞。内訳は▽10mS60 団体6位（伊倉、小武家、待場）。▽50mP60 団体6位（柿本智彦、景山、小武家）。▽50m3×40 団体 5 位（景山、小武家、日野）。

西日本では景山が▽50mP60 優勝。これまで関西では準優勝に甘んじていたが、ようやくその雪辱を果たすことができた。女子は総合団体出場資格なし。

秋関西は男子総合団体4位。▽10mS60 団体10校中6位（日野、小武家、伊藤）。▽50mP60 団体4校中4位（日野、景山、小武家）。▽男子 50mP60（個人）で景山がファイナル7位（本戦4位）入賞。▽50m3×40 団体3位（日野、景山、小武家）、▽男子 50m3×40（個人）で景山がファイナル4位（本戦8位）、小武家がファイナル7位（本戦3位）入賞。▽男子 10mBPDS40M 団体準優勝（待場、三木、山口）。▽男子 10mBPDS40M（個人）で待場がファイナル6位（本戦2位）入賞。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mS40W 団体7位（織野、小堀、高木）。▽10mBPDS40W 団体5位（泉、橋本、植田）▽10mBPDS40W（個人）で橋本がファイナル4位入賞。高木は春関西に続き▽女子 50mP60W（個人）12位、▽女子 50m3×20W（個人）で13位と SB メンバー紅一点として健闘。

全日本は前年に続き、男子の総合団体出場は叶わなかった。▽男子 10mS60 団体22校中8位（景山、伊倉、小武家）。▽男子 50mP60 団体13校中3位（柿本、景山、小武家）。▽男子 50m3×40（個人）で小武家がファイナル5位入賞。▽女子 10mS40W 団体18校中11位（滝口、高橋、小堀）。高木は▽女子 50mP60W（個人）、▽女子 50m3×20W（個人）で年度を通じ、SB メンバー紅一点として活躍した。

新人戦では総合団体優勝を飾ることができた。とは言うものの、総合団体を組むことができたのは関学だけ。若干不本意ではあるものの、優勝は優勝であり、他校と比べメンバーを揃えることが出来たのも総合力の賜物、実力のうちであった。▽男子 10mS60 団体2位（伊倉、宮崎裕康、新海）。▽女子 10mS40W 団体2位（滝口、高橋、川﨑）。女子 10mS40（個人）で高橋がファイナル8位（本選8位）入賞。▽男女 10mBPDS40MW 団体3位（小川太佑、秋山玲緒、中野良哉）。

【悲願の男子総合団体優勝！　原動力は高校未経験の射手たち】

16年の春関西で、男子総合団体準優勝に輝いた。前年まで活躍したメンバーが引退し、戦力ダウンも囁かれたが、結果としては申し分ない内容であった。▽10mS60 団体6位（宮

碕 、伊倉、待場)。▽50mP60 団体優勝(待場、柿本、伊藤)。▽50mP60(個人)で待場、木村、伊藤の 3 人がファイナルに出場。▽50m3×40 団体準優勝(柿本、木村祐貴、伊藤)、▽50m3×40(個人)で伊藤と待場がファイナルに出場。▽10mBPDS 40M(個人)で新海がファイナル7位入賞。女子は総合団体の出場資格がなく、▽10mBPDS40W(個人)で、髙橋がファイナル4位、大野裕子がファイナル7位入賞。

西日本では男子が総合団体優勝を達成。▽10mS60 団体5位(待場、山村、伊倉)。▽50mP60 団体優勝(伊藤、木村、待場)、▽50mP60(個人)で柿本がファイナル2位、伊藤がファイナル3位入賞。▽50m3×40 団体優勝(伊藤、木村、待場)、▽50m3×40(個人)で伊藤がファイナル3位入賞。女子は総合団体出場資格がなく、▽10mBPDS40M(個人)で高橋がファイナル3位、大野がファイナル5位入賞。

前年に続き日本学生選抜に 2 年連続で出場することができたのは、西日本の男子総合団体優勝に続く快挙であった。しかしファイナルに出場することができたのは▽50mP60 での伊藤の6位入賞のみであった。関東勢の勢いに圧倒され、また学生選抜という大きな舞台のプレッシャーもあってか、本調子が出せない選手も多かった。それ以上に関東のレベルの高さを関西の各選手は実感した試合でもあった。

秋関西は男子が総合団体準優勝。▽10mS60 団体4位(伊藤、山村、新海)。▽50mP60m 団体優勝(伊藤、柿本、待場)、▽50mP60(個人)で伊倉が3位入賞。▽50m3×40 団体準優勝(伊藤、木村、柿本)、▽50m3×40(個人)で伊倉が 8 位入賞。際立ったのは2年ながら早くも SB を持ち、今回 SB に初出場した経験者の伊倉の活躍。P では兵庫県代表で国体に出場した経歴の持ち主だった。▽男子 10mBPDS40 団体3位(待場、新海、小川)、▽男子 10mBPDS40M(個人)で待場がファイナル 3 位入賞。▽女子 10mBPDS40W 団体3位(大野、川崎、高橋)、▽女子 10mBPDS40W(個人)で高橋がファイナル2位入賞。

全日本は団体枠を獲得することができず、個人のみの出場。▽男子 50m3×4(個人)で伊藤がファイナル5位入賞。高校未経験者ながら、全日本学生で 1148 点の関西学連記録を打ち立てた。4年間積み重ねてきたものの集大成であり、素晴らしい記録だった。

新人戦では男女ともに総合団体2位。▽男子 10mS60M 団体(中野、小川、秋山)。▽女子 10mS40W 団体(亀田理沙、岡島沙良、山内香奈)、▽女子 10mBPDS40M(個人)で向井美久(1 年)がファイナル8位入賞。

17年の春関西は残念ながら、男女ともに総合団体出場資格なし。フォローアップ検査(用具等の競技後検査)でレギュラー2人が失格となり、AR 男女団体の成績が残らないというお粗末な結果になった。試合前の自主検査の重要性を改めて感じた試合でもあった。
▽男子 10mS60M(個人)で伊倉が6位、中野が8位入賞。▽男子 50mP60M 団体4位(中野、小川、伊倉)、▽男子 50mP60M(個人)で伊倉が8位入賞。▽女子 BPDS40W 団体3位(向井、大野、高橋)、▽女子 BPDS40W (個人)で大野が7位、向井が8位入賞。

西日本では AR,SB ともに春関西よりも入賞数は増えた。▽男子 10mS60M 団体3位(中

野 、小川、伊倉)、▽男子 10mS60M(個人)で伊倉が5位、中野が7位入賞。▽男子 50mP60M 団体4位(中野、小川、伊倉)、▽男子 50mP60M(個人)で伊倉が4位入賞。

秋関西では男子が総合団体6位。▽10mS60M 団体6位(新海、宮碕、伊倉)。▽50mP60M 団体6位(小川、宮碕、伊倉)、▽50mP60M(個人)で伊倉が5位、小川が6位入賞。▽男子 50m3×40 団体5位(新海、小川、伊倉)、▽男子 50m3×40(個人)で伊倉が7位入賞。女子総合団体は出場資格がなく、▽10mS40W 団体3位(高橋、滝口、山内)。▽SB 女子 50mP60W(個人)で滝口が6位入賞。SB 公式戦初出場、紅一点で入賞は見事だった。▽女子 10mBPDSW 団体3位(向井、大野、高橋)、▽女子 BPDS40W (個人)で高橋が準優勝。高橋は AP 所持者かつ経験者の同志社の選手を退けての準優勝であった。

10 月の全日本では、近年で最も多くの部員がインカレに出場することができ、インカレという大舞台で自己ベストを更新するものもいた。また、関東の NT 選手、強豪校の記録を見て良い刺激を受けることができた。最終日は台風の影響でファイナル、閉会式が無くなり物足りない試合でもあった。▽男子 10mS60M 団体10位(新海、古岸将季、伊倉)。個人では10人が出場したが入賞者はなし。▽男子 50m3×40 団体12位(小川、新海、伊倉)。個人で3人が出場したが入賞者はいない。▽男子 50mP60M(個人)で小川、伊倉の2人が出場した。

▽女子 10mS40W 団体(滝口、山下伊純、山内)10 位、個人では9人が出場したが入賞者はいない。▽女子 50mP60W(個人)で滝口が出場。SB 女子射手では滝口が奮闘した。

新人戦は男女総合団体2位。▽男子 10mS60 団体優勝(古岸将季、中沢康太、坪井俊太朗)。女子 10mS40W 団体2位(木曽わかな、米田絢貴、山下) 。

18年の春関西では、学内のエントリーミス(手続き不備)により、男子は SB 団体を組むことが出来なかった。50mP60 でファイナル3人、50m3×40 でファイナル2人が出場しただけに悔やまれる試合になってしまった。

▽男子 10mS60M 団体6位(紺谷健太、古岸、伊勢健)、個人で12人が出場したが入賞者なし。▽男子 50mP60M 団体出場なし(エントリーミス)、▽男子 50mP60M(個人)で伊倉がファイナル2位、小川がファイナル4位、内山諄一が8位入賞。▽男子 50m3×40M 団体出場なし(エントリーミス)、▽男子 50m3×40M(個人)で伊倉がファイナル3位、小川がファイナル6位入賞。▽男子 10mBPDS60M 団体7位(小川 、郡山健太、古賀政行)。個人で6人が出場したが入賞者はいない。▽女子 10mS60W 団体4位(木曽、山下、山内)、▽女子 10mS60W(個人)で6人が出場した。▽SB 女子 50m3×40W(個人)で山下が出場した。▽女子 10mBPDS60W 団体3位(木曽、山岡香凛、米田)、▽女子 10mBPDS40W(個人)で3人が出場。▽男女 10mAPSMW(個人)で伊倉がファイナル8位入賞。

西日本▽男子 10mS60 団体8位(紺谷、古岸、中沢)、男子 10mS60(個人)で11人出場。▽男子 50mP60M(個人)で小川が6位、内山が7位入賞。▽男子 50m3×40M(個人)で伊倉がファイナル3位、小川がファイナル8位入賞。▽女子 10mS60W 団体 3 位(山内、木曽、山下)、▽女子 10mS60W(個人)で6人出場。▽SB 女子 50m3×40M(個人)で山下が

ファイナル8位入賞。SB 射手として紅一点。▽男女 10mAPSMW（個人）で伊倉がファイナル8位入賞。

日本学生選抜は西日本豪雨のため中止。

秋関西は男子総合団体3位。▽10mS60M 団体3位（伊倉、紺谷、古岸）、▽10mS60M 個人は12人出場。▽50mP60M（個人）で伊倉が2位、小川が6位入賞。▽50m3×40M 団体準優勝（伊倉、内山、小川）、▽男子 50m3×40M(個人)で伊倉が6位、小川が8位入賞。▽10mAP60M（個人）で伊倉が出場した。▽10mBPDS60M 団体8位（伊倉、小川、古賀）、▽男子 10mBPDS60M（個人）で5人出場。

女子は総合団体資格なし。▽10mS60W 団体4位（山内、木曽、山岡）、▽10mS60W（個人）は7人出場。▽SB50mS60W 団体出場なし。▽50mP60W（個人）で木曽が5位入賞。▽SB 女子 50m3×40W 団体出場なし。▽50m3×40W（個人）で木曽が出場した。SB 射手として紅一点。▽10mBPDS60W 団体4位（木曽、鍵岡莉奈、若宮有美）、▽10mBPDS60W（個人）で木曽が6位入賞。

全日本は男女ともに団体枠を獲得できず個人出場のみで、際立った成績は残せなかった。▽男子 10mS60（個人）8人出場。▽男子 50mP60M（個人）3人出場。▽男子 50m3×40M（個人）3人出場。▽10mAP60M（個人）伊倉が出場。▽女子 10mS60W（個人）4人出場。

オールミッションは男女総合団体準優勝、（併行開催の関学・青学定期戦優勝）。▽男女 10mS60MW 団体2位（紺谷、古岸、木曽）、▽男女 10mS60MW(個人)17人出場。

新人戦は男女総合団体2位。▽男子 10mS60M 団体5位（郡山、古賀、竹内一平）、▽男子 10mS60M(個人)で古岸が7位入賞。▽女子 10mS60W 団体3位（田中優子、山岡、若宮）、▽女子 10mS60W（個人）4人出場。▽男女 10mBPDS60W 団体6位（小川、山本悠斗、若宮）、男女 10mBPDS60W（個人）4人出場。▽男女 AR Mixed Team 山岡・古岸ペアがファイナル4位入賞。

【2016 年以来の男子総合団体連覇！ 原動力は高校未経験の射手たち】

19年春関西は男子が総合団体優勝。▽10mS60 団体5位（伊勢健、古岸、紺谷）、▽10mS60（個人）で古岸が8位入賞。▽10mBPDS60M 団体8位（伊勢、古岸、山本）。それぞれ団体の成績は振るわなかったが、▽50m3×40M で団体優勝（伊勢、中沢、紺谷）を成し遂げた。▽50m3×40M(個人)で紺谷が2位、中沢が5位入賞。男子 SB 射手は全員、大学から始めた選手で、大学内で SB 射場を持たないのは四私大の中では本学だけで、日頃からの能勢射場での集中練習が功を奏し優勝に導いた。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mS60 団体 D.S.Q により順位なしであったが、▽10mBPDS60W 団体優勝（木曽、若宮、鍵岡）、▽10mBPDS60W（個人）で若宮が6位入賞。▽50m3×40 個人で木曽が7位入賞した。

西日本学生も男子が総合団体優勝。▽10mS60 団体5位（伊勢、古岸、紺谷）、▽10mS60（個人）で紺谷が5位入賞。▽50m3×40M 団体優勝（伊勢、中沢、紺谷）を成し遂

げた。▽50m3×40M(個人)で紺谷が優勝、伊勢が4位、中沢が5位入賞。春関西に続いて▽SB 男子 50m3×40M で連続優勝、関学 SB 陣の実力が遺憾なく発揮された。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mS60 団体4位(木曽、山岡、鍵岡)。▽SB 女子 50m3×40(個人)で木曽が5位入賞。紅一点、春季全関西より順位を上げた。

秋関西は男子が総合団体は失格。▽10mS60 団体で射手の D.S.Q により失格となり期待の経験者1年・河越欽也の活躍はお預けとなった。▽10mBPDS60M 団体9位(伊勢、古岸、金澤健太)▽50m3×40M 団体で優勝(伊勢、中沢、紺谷)を飾った。▽50m3×40M(個人)で中沢が準優勝、紺谷が3位入賞。春関西、西日本に続いて▽SB 男子 50m3×40M で3連続優勝、2019年の関学 SB 陣は圧倒的な強さを見せつけた。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mS60 団体5位(木曽、山岡、若宮)。▽10mBPDS60M 団体優勝(木曽、鍵岡、若宮)、春関西に続いて連続優勝を飾り、女子ピストル競技の実力を知らしめた。▽SB 女子 50m3×40(個人)で木曽が5位に入賞し、春関西より順位を上げた。

この年の秋関西は、結果として失格であったが、総合得点は SB、AR とも優勝した立命館に勝っており、初心者中心だったこの年の射撃部の集大成の結果である。

全日本学生団体は男子 SB 三姿勢、AR 女子のみの出場。▽男子 50m3×40M9位(伊勢、中沢、紺谷)。▽女子 10mS60 団体5位(鍵岡、山岡、木曽)。

残念ながら個人入賞は出なかったが、紺谷、中沢を中心にほとんどの種目において入賞者を出すことができ、全体の底上げは達成できたと言える(現役談)。

20年はコロナウイルスという未曾有の災害に見舞われ、例年のような活動ができなかった。特に関学は制限が厳しく、4～7月の間は練習が禁止で8月以降も一日最大 1 時間までの練習という過酷な環境下での活動を余儀なくされた。

西日本では▽男子 10mAR60M 団体6位、▽女子 10mAR60W 団体6位。▽男女 10mAR60MW (個人)で19人、▽女子 10mAP60W (個人)で福原向葵、▽女子 50m R3×40W(個人)で若宮がそれぞれ出場したが、入賞者はいなかった。

秋関西は▽男子 10mAR60 団体5位(河越、郡山健太、竹内)、▽女子 10mAR60W 団体5位(若宮、松末柚花、梅田千鈴)、個人では男女21人が出場した。▽女子 10mAP60W(個人)で福原、▽女子 50m R3×40W(個人)、▽女子 50mR60PR(個人)で若宮がそれぞれ出場したが、▽男子 10mAR60M 団体及び▽女子 10mAR60W 団体の出場枠は獲得出来たものの、入賞者はいなかった。

全日本(分散開催)では▽男子 10mAR60M 団体12位、▽女子 10mAR60W 団体10位、▽男子 10mAR60、▽女子 10mAR60W ともに個人で男女21人が出場した。▽女子 10mAP60W(個人)で福原が7位入賞。▽女子 50m R3×40W(個人)、女子 50mR60PR(個人)で若宮がそれぞれ出場したが、入賞者は福原のみだった。

大会の成績も思うように振るわず、悔しい結果となった中で、4年の AR 所持者全員が全日

本に出場できたことは明るい話題であった。

【創部初、SB 団体結成、女子総合団体として、全関西・全日本に出場】

21年の新人戦は、例年の11月から延期され、3月開催となった。加えて20年度に大会が少なかったことから3、4年生が参加できる不朽戦も同時開催された。

男子は▽10mAR60M 団体で2位(松本大輝、森口諒介、寺田征実)となったが、女子が▽10mAR60W 団体 D.S.Q(フロントサイトによる失格)となり、残念ながら総合団体の結果も残すことが出来なかった。▽男子 10mAR60M(個人)で寺田がファイナル4位(本選7位)、河越がファイナル5位(本選6位)入賞。▽女子 AR60W(個人)で松末が8位入賞。団体戦失格など悔やまれる点もあるが、松末がファイナル射手8人中唯一の高校未経験者とし出場し、大いに期待される射手に成長した。不朽戦では▽男女 BP60MW 団体3位(金澤、松本、古岸)、▽男女 BP60MW(個人)で古岸が7位(本選7位)、松本が8位(本選8位)が入賞。

春関西もコロナ禍の影響で形式が変わった。日程も会場も分散という異例の大会であった。個人ではファイナルも行われないため、本選の結果のみで順位が決定した。三姿勢も発数が60 発に変更となった。感染予防の為、日程ごとに大学が分かれて出場することになり同じ大学の射手が並んで(河越、森川、若宮)撃つという異例の措置が取られた。

男子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体4位(河越、寺田、森口)、▽10mAR60M(個人)で河越が6位、寺田が7位入賞。AR 男子団体は経験者2人が健闘するも、団体の結果は振るわず4位。▽50mFR3×20M(個人)と▽50mFR60PR(個人)で河越が準優勝。関西の男子には頭一つ抜けた SB 射手がおらず、関西のエースとして SB 射手を牽引する存在へと成長していく期待が高まった。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60W 団体4位(若宮、松末、森川実紅)。AR 女子団体も新入生の経験者を加えた3人で挑んだが点数は伸びず。▽女子 AP60W(個人)で福原が入賞。学内唯一の AR ピストル射手として、強豪同志社が女子1、2位、男子1～4位と AP 上位を独占する中で、3位という結果を残した。また、若宮が▽女子 50mFR60PR 個人で自己新記録を出し優勝、▽女子 50m3×20(個人)でも7位入賞と、関西学生連盟の幹事長という重責を担いながら AR、SB で大活躍した。

西日本は支部ごとの分散及び九州支部不参加という縮小大会であることに加え、豪雨の影響で当日朝まで開催が危ぶまれ、選手は不安な状況で挑む試合となった。分散開催のためファイナルは行われず、三姿勢も 60 発での開催。

男子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体3位(河越、寺田、小川)、▽10mAR60M(個人)で寺田が5位入賞。西日本に続く団体3位で、点数は大きく上昇した。▽50mFR3×20M(個人)で、河越が4位入賞。▽50mFR60PR(個人)で河越が準優勝。▽10mAP60(個人)で金澤祐太が7位入賞。

女子は総合団体に初めて出場し、4位となった。▽10mAR60M 団体4位(若宮、松末、森川)。▽50mFR3×20M 団体準優勝(若宮、松末、森川)。松末は SB 競技初出場ながら、2

位獲得に貢献した。▽50mFR3×20M(個人)で若宮が7位入賞。▽50mFR60PR(個人)で、若宮が4位、松末が5位入賞。SB 団体では関大を上回り2位。初の女子 SB 団体ながら、SB 射場のある大学相手に十分張り合えることを示す大きな成果だった。▽10mAP60(個人)で、福原が4位入賞。

歴代女子の SB 選手はいたものの団体の人数がそろわなかった中、念願の団体出場。部内で一度は SB 射手が絶えた状態から3学年で団体を組めたことは快挙である。優勝の同志社には大きく及ばず、特に AR での点差は大きいが、SB は AR 以上に未経験者が経験者に追走していける要素のある種目だと感じさせる試合でもあった。

秋関西は例年より1か月ほど遅い開催だったが、久々にファイナル(BP 以外)も実施された。

男子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60M 団体3位(河越、寺田、小川)、▽10mAR60M(個人)で寺田が5位(本選5位)入賞。▽50mFR3×20M(個人)で河越が4位入賞。▽50mFR60PR(個人)で河越が準優勝した。▽10mA60(個人)で金澤が7位入賞。

女子は総合団体4位。▽10mAR60W 団体4位(若宮、松末、森川)。▽50mFR3×20M 団体4位(若宮、松末、森川)、▽50mFR3×20M(個人)で若宮が6位入賞。▽50mFR60PR(個人)で若宮が6位入賞。福原が▽AP60W(個人)8位、▽BP60W(個人)4位と両競技で入賞を果たした。

この大会では3人がファイナルに出場。河越は▽FR3×20(個人)で4位に。KP 終了時点で3位につけ好調だったが、立射での同志社勢の追い上げは凄まじく、最終的に少し順位を落とした。ただ▽FR60PR でも準優勝を飾り十分な結果を残した。寺田は新人戦以降すべての大会で AR 入賞を果たしており、今回も5位と結果を残した。若宮も三姿勢でファイナル出場。女子は SB ファイナル経験者もおり、8人中唯一の未経験者だった。結果は6位だったが、K 終了時点では1位になるなど、得意な姿勢では経験者に追走していくことができた。

全日本学生にも SB 女子団体で初出場。前年同様ファイナル無し、各支部分散開催となった。三姿勢は最後まで 120 発に戻らず、60 発競技として行われた。残念ながら女子は総合団体枠を獲得することができなかったが、SB 女子団体に初出場を果たした。

▽男子 10mAR60M 団体3位(河越、寺田、小川)、▽男子 10mAR60M(個人)で寺田が7位入賞。▽女子 10mAR60W 団体10位(若宮、鍵岡、森川)。▽女子 50mFR3×20M 団体10位(若宮、松末、永井希和)、▽女子 10mAR60W 団体4位(若宮、松末、森川)。

コロナ禍の影響は続き、従来の部活動・試合ができない苦しい1年であった。引き続き練習制限などがあり、部内の雰囲気はあまり盛り上がらず、現役部員は先輩方が積み上げてきたものが失われていくようなもどかしさも感じた。そのなか創部初の女子団体を組めた実績は大きい。射撃は個人スポーツだが、部活動であることも踏まえると団体で成績を伸ばすのは大きなモチベーションになる。この年、関西学生射手ランキングで河越が 50mFR3×20 の部2位、50mFR60PR の部3位に入った。

【男子(AR・SB)、女子(AP)共に高校経験者が度々、入賞を飾り活躍】

22年春関西も前年同様、分散開催となったが、コロナ禍の影響が徐々に緩和され、開閉会式や全種目でファイナルが行われるなど、選手にとって待ち望んだ大会であった。前年に結成された SB 女子団体は、SB 射手不足のため組めず男女とも総合団体は見送り。SB 女子唯一の射手、松末は関西学生連盟の幹事長という重責を担いながらシーズンに臨んだ。

男子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体3位（河越、寺田、太田）。▽50mFR3×20M（個人）で寺田が4位（本選5位）、河越が6位（本選1位）入賞。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体4位（久保依里奈、松末、森川）。▽女子 50mR60PR（個人）で松末が6位入賞。▽10mB60W 団体2位（加納千聖、日下部実保、村井萌々子）、▽女子 10mB60W（個人）で加納が 7 位入賞。▽女子 10m AP（個人）で福原が出場（503 点）。

近畿ライフル選手権（大橋杯）▽女子 10mAP60W （個人）で福原が7位入賞。▽男子 50mFR60PR（個人）で寺田が3位、河越欽也が4位入賞。

西日本は前年同様、支部ごとの分散開催。各種目エキシビションでファイナルが行われた。

男子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体3位（河越、寺田、太田）、▽10mAR60M（個人）で寺田が3位入賞。▽50mFR3×20M（個人）で河越が4位、寺田が7位入賞。▽50mR60PR（個人）で河越が3位、寺田が6位入賞。▽10mAP60（個人）で金澤が6位、▽10mBP60 団体5位（金澤、河越、花澤慶祐）、▽10mBP60（個人）で金澤が8位と両部門で入賞した。河越は、SB を始めて約 1 年半が経ち三姿勢も伏射もバラつきなくスコアを出せるようになり、実力をつけていった。寺田も関西大会の入賞圏内・ファイナル常連になっていき、AR の成績も好調で西日本 3 位となった。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体4位（遠藤くるみ、松末、森川）。遠藤は AR 所持歴が浅いながらも 600 点近い点数を記録した。▽50mR60PR（個人）で松末が3位入賞。▽10mAP60（個人）で福原が4位入賞。▽10mBP60W 団体3位（加納、中西里菜、村井）。

コロナの影響で中止が続いていた総合関々戦が 3 年ぶりに開催された。大学同士が総力戦で競う機会はあまりなく、3年以下の部員には新鮮な試合であっただろう。結果は関大に100点以上の差をつけられ悔しい結果に終わった。

3年ぶりの開催となった日本学生選抜は、分散ではなく全国の学生が伊勢原射撃場に集まった。関学からは河越と福原が出場した。▽男子 50m FR3×20（個人）で河越が7位、▽女子 AP60W（個人）で福原が6位入賞。河越は個人の目標として掲げた悲願の全国入賞を達成。福原は大舞台になるほど実力を出し切れるようで、2度目の全国入賞だった。

秋関西はコロナ第7波と時期が被り、一時は開催が危ぶまれたが、日程を変更し開催された。団体種目は惜しい結果に終わったが、個人での活躍が目立った。

男子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60M 団体5位（河越、寺田、太田）、▽男子 10mAR60M（個人）で河越が4位（本選8位）入賞。▽50mFR3×20M（個人）で寺田が優勝（本選2位）、河越が準優勝（本選4位）。▽50mR60PR（個人）で河越が準優勝、寺田が5位

入賞。三姿勢ファイナルで寺田が関西制覇、河越が準優勝し、関学勢がワンツーフィニッシュを成し遂げた。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体4位（遠藤、田中咲良、森川）、▽10mAR60M（個人）で森川が8位（本選7位）入賞。▽50mR60PR（個人）で松末が4位入賞。▽BP60W 団体6位（岡夏未、田中、加納）。

全日本学生は、4年も含め、誰も経験したことがない集中開催の全日本。いつも練習している能勢射場に関東の強豪校がいることに違和感があり、異様な緊張感が漂っていた（学生談）。

男子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体12位（甲斐大貴、河越、寺田）、▽50mFR3×20M（個人）で寺田が6位（本選8位）入賞。▽10m BP60 団体6位（前田大和、花澤、伴悠人）。

女子総合団体は出場資格なし。▽10mAR60M 団体14位（遠藤、田中、森川）。▽BP60W 団体3位（川上仁葉、遠藤、加納）、▽BP60W（個人）で加納が入賞。▽AP60W（個人）で福原が7位入賞。

関西学生新人戦は、コロナの影響で出場機会が失われていた3年も出場が可能に。▽男子 10mAR60M 個人で寺田が優勝。▽女子 10mAR60M 団体3位（遠藤、田中、高橋智）、▽女子 10mAR60M(個人)で森川が5位（本選6位）入賞。▽10mAP60W(個人)で福原が3位（本選1位）入賞。▽女子 10mBP60W 団体優勝（遠藤、加納、川上）、▽女子 10mBP60W(個人)で森川が3位（本選6位）、加納が6位（本選2位）入賞。

23年春関西は男子総合団体が出場資格なし。▽10mAR60M 団体9位（寺田、花澤、伴）、寺田が▽10mAR60M(個人)で8位（本選8位）、▽50mFR3×20M(個人)で4位（本選5位）入賞した。

女子は2年ぶりに総合団体に復活し4位。▽10mAR60M 団体5位（加納、田中、高橋）。▽50mR3×20M 団体4位（遠藤、岡、高橋）。▽50mR60PR×20M(個人)で高橋が5位入賞。▽AP60W 団体2位（福原、田中）、▽AP60W(個人)で福原が6位（本選4位）入賞。▽BP60W 団体優勝（加納、森川、川上）、▽BP60W(個人)で川上がファイナル3位（本選8位）、加納が6位（本選3位）入賞。

日本学生選抜には4人が出場した。▽10mAR60 に寺田、▽10mAP60W に福原、▽50mR3×20、▽50mFR60PR に高橋、▽50mR3×20，▽50mFR60PR、▽10mAR60W、▽10mAP60W に田中。▽女子 AP60W（個人）で福原が3位入賞した。

西日本は▽男子 10mAR60 団体11位、▽女子 10mAR60W 団体11位。それぞれレギュラー1人から D.N.S 者が出た。▽10mAP60W（個人）で福原が3位、田中が6位入賞。▽男子 FR60PR（個人）で寺田が4位入賞。▽女子 50m R3×20（個人）で高橋が6位、▽女子 50m FR60PR（個人）で高橋が7位入賞。

秋関西は男子が総合団体出場資格なし。▽AR60 団体8位、寺田が▽50mFR3×20（個

人）で5位入賞、▽50mFR60PR（個人）で準優勝した。

女子は総合団体4位。▽10mAR60W 団体5位、▽10mAP60W 団体準優勝。（福原、田中）▽AP60W（個人）で福原が7位入賞した。▽SB50mR3×20 団体4位（岡、田中、高橋）、▽50mR3×20（個人）で高橋が5位（本選8位）入賞。▽BP60W 団体2位（福原、加納、川上）、▽BP60W（個人）で川上が4位、福原が5位入賞。

秋関西と同時開催で、本校が幹事校の秋四私大定期戦が3年ぶりに開催されたが、上位3校との実力差は歴然だった。▽10mAR60/AR60W 団体4位、▽10mAP60/AP60W 団体3位、▽50mFR3×20/R3×20 団体4位、▽50mFR60PR/R60PRMW 団体4位、▽10mBP60/BP60W 団体3位。

全日本学生は3年ぶりの集合開催での全国大会だった。▽男子 10mAR60 団体17位。▽10mAR60W 団体13位。▽10mAP60W（個人）で福原が7位入賞。

オールミッション大学定期戦は、コロナ禍がようやく明け、本格的に制限も緩和された中で開かれ、関東と関西に分かれて開催された。青学・関学定期戦と同時開催で関学は2位。

▽10mAP60/AP60W（個人）で福原が4位、▽50mFR3×20/R3×20MW（個人）で高橋が2位入賞。

新人戦は▽男子 AR60 団体7位、▽男子 AR60（個人）で横井優斗が8位入賞。▽男子 BP60 団体7位、▽女子 BP60W 団体3位（大西沙弥、伴野吏音、李可心）。

【AP で全日本レベルの新人加入、日本から世界を視野に…】

24年西日本学生は、▽男子 AR60 団体7位、▽10mAR60（個人）で横井が8位（本選8位）入賞。女子は総合団体3位。▽AR60W 団体4位、▽50mR3×20W団体3位、▽50mR3×20（個人）で髙橋がファイナル6位（本選7位）、岡がファイナル8位（本選8位）入賞。▽50mR60PR（個人）で髙橋が3位入賞した。

関西オープンライフル▽男子 10mAP60（個人）で森田馨介が2位入賞。▽女子 50mR60PR（個人）で髙橋が3位入賞。

大阪府民スポーツ大会▽10mAR60W（個人）で田中が6位入賞。▽10mAP60（個人）で森田が1位入賞。▽50mR60PR（個人）で岡が1位入賞。

春季全関西は男子が総合団体出場資格なし。▽AR60 団体9位、▽10mAR60（個人）で、横井がファイナル5位（本選6位）入賞。▽10mAP60（個人）で森田がファイナル5位（本選2位）入賞。▽10mBP60 団体7位、▽10mBP60（個人）で森田がファイナル3位（本選2位）入賞。

女子は総合団体3位。▽AR60W 団体6位、▽50mR3×20W団体3位（岡、田中、高橋）▽女子 50mR60PR（個人）で田中が6位入賞。関西学生連盟幹事長という重責を担いながらAP、SB で活躍した。▽10mBP60W 団体5位、▽10mBP60W（個人）で川上がファイナル4位（本選3位）、大西がファイナル7位（本選8位）入賞。

近畿ライフル選手権（大橋杯）▽男子 10mAP60（個人）で森田が 1 位入賞。▽女子

50m3×20(個人)で髙橋が6位入賞。

総合関関戦はAR60、AP60、BP60、R60PR の全種目とも2位で大差をつけられた。

日本学生選抜は▽男子 10mAR60(個人)で横井が出場。▽男子 10mAP60(個人)で森田がファイナル 3 位(本選 1 位)入賞。田中が▽女子 10mAP60(個人)、▽女子 50m R3×20 及び▽女子 50mR60PR(個人)に、高橋が▽女子 50m R3×20(個人)に出場。

西日本学生▽女子 50mR3×20(個人)で髙橋がファイナル6位(本選5位)入賞。

6月の強化指定選手選考記録会▽10mAP60 で森田がジュニア1位入賞。9月に台北で行われる国際大会をかけた大切な試合で、代表権を獲得する快挙を達成した。「世界でどれだけ通用するかを知りたくて、選考会を受けた。上位2人が選出され、無事 1 位通過で台湾への派遣が決まった。まさか自分が出場できるとは思わなかった。嬉しさよりも驚きの方が大きかった。」(森田談)

第78回国民スポーツ大会近畿、関東ブロック大会に田中が▽AP60W 兵庫代表、髙橋が▽R3×20 奈良代表、森田が AP60 として出場したが、3人とも国体出場は叶わなかった。森田はわずか 1 点差で国体切符を逃してしまう非常に悔しい結果であった。

秋関西は異例の8月開催。BP は猛暑の影響でファイナルが行われなかった。また部員が救急搬送されるなど、今後の暑さ対策が問われる大会であった。

男子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60 団体9位、▽10mBP60 団体11位、▽10mAP60(個人)で森田がファイナル4位(本選1位)入賞。▽10mBP60(個人)で森田が3位入賞。

女子は総合団体4位。▽AR60W 団体5位。▽50mR3×20 団体4位(岡、田中、髙橋)、▽50mR3×20(個人)で髙橋がファイナル8位(本選8位)入賞。▽10mAP60W(個人)で田中がファイナル7位(本選8位)入賞。▽BP60W 団体2位(村井、川上、大西)、▽女子 10mBP60W(個人)で村井が5位、加納が6位、川上が7位入賞。

8月、森田のユニバーシアード出場がかかった強化指定選手選考記録会が行われた。▽男子 10mAP60 森田(567 点)

JOC ジュニアオリンピックカップ大会兼 ISSF ジュニアライフル選手権に横井と森田が出場。▽男子 10mAP60(個人)で森田がファイナル7位(本選1位)入賞。本戦では2位に10点以上の大差をつけて優勝したものの、ファイナルでは雰囲気に呑まれ振るわなかった。横井は 597.2 点。

森田は9月、射撃部では小林恭裕以来の海外遠征となる「TAIPEI INTERNATIONAL GRAND PRIX」に出場した。同学年の同志社・内田翼選手とともにジュニアの代表として臨み、X の数で負けてしまっての2位ながら、フレッシュでそれでいて落ち着いていた様子であった。▽10mAP60 で森田がファイナル6位(本戦 2 位)。本戦は彼らしい落ち着いた射撃だったが、ファイナルは緊張や空気感の違いからか、力を出し切れず6位に終わった。

全日本学生では、男子は団体枠を獲得できず、個人部門のみで出場。▽男子 10mAP60(個人)で森田がファイナル3位(本選7位)入賞。ファイナルでは落ち着いた射撃をみせた。

▽男子 10mAR60(個人)で横井が出場。▽女子 AR60W 団体16位。▽女子 50mR3×20 団体10位、▽女子 50mR3×20(個人)で岡、田中、髙橋が出場。▽女子 50m R60PR(個人)で岡、田中、髙橋、▽女子 10mAP60(個人)で田中らが出場。

全日本と同時並行で全国 BP が行われた。ビームに力を入れている関西が主幹だからこそ開催できる試合だった。全学年から多数出場し、関西の大学主体の大規模大会となった。

▽男子 10mBP60 団体5位、▽男子 10mBP60(個人)で森田がファイナル4位(本選4位)入賞。▽女子 10mBP60W 団体優勝(村井、加納、川上)、▽10mBP60W(個人)で川上がファイナル3位(本選4位)、藤田奈々がファイナル8位(本選6位)入賞、加納がファイナル6位(本選7位)入賞。

オールミッション▽男子 10mAR60(個人)で横井が2位入賞。▽男子 10mAP60(個人)で森田が優勝。▽女子 50mR3×20(個人)で髙橋が2位入賞。

覇業交換で森田が関西制覇個人として表彰された。

25年2月、全日本ミックス・チーム射撃選手権で、森田が内田翼(同志社)、中山惇之丞(岡山商大)とのチームで▽男子10mAP60Mで団体優勝。

3月、「1st ALL JAPAN FINAL CUP」(兼3月強化指定選手選考記録会)▽10mAP60M(個人)で森田が5位入賞。森田は同月、村井とともに西宮市のスポーツ発展に貢献した人物に贈られる「くすのき賞」を受賞。関西学院後援会表彰式では、全国制覇表彰をBP女子団体(村井、加納、川上)が、特別賞を森田が受賞した。

4月強化指定選手選考記録会▽男子AP60M (個人)で森田が5位入賞。大学生では最高位だった。同月、大阪府民スポーツ大会(兼国体一次予選)▽AR60M (個人)で横井が5位、長沼凜矩が7位、藤木日向が8位入賞。▽AP60M(個人)で森田が2位入賞。▽AP60W(個人)で川上が3位,大西が6位入賞。▽50mSBR60R(個人)で高橋が優勝、大西が2位入賞。

西日本兼春関西は、 男女とも総合団体には出場資格なし。▽男子10mAR60M団体8位。▽男子50m R60PR(個人)で横井が8位入賞。▽男子10mBP60M団体11位。▽男子10mAP60M(個人)で森田が優勝。▽女子10mAR60W団体6位。▽女子10mAP60W団体3位(川上、大西)。▽女子50mR3×20(個人)で髙橋が8位入賞。▽女子50mR60PRW (個人)で髙橋が準優勝。▽女子10mBP60W団体3位(川上、浅本結衣、嶋田奈緒)、▽女子BP60W(個人)で浅本が4位、川上が5位入賞。

日本学生選抜▽男子10mAP60M(個人)で森田がファイナル3位(本選準優勝)。▽女子10mAP60W(個人)で川上がファイナル5位(本選優勝)。▽男子10mAR60M (個人)に横井、▽女子50mR3×20 (個人)と▽女子50mR60PR(個人)に髙橋が、▽女子10mAP60W(個人)に大西が出場。▽10m男女子AR MIX TEAMで髙橋、横井が出場。

森田が5月強化指定選手選考記録会▽男子AP60M (個人)で6位入賞。ドイツで行われた「ISSFジュニアW杯」に出場し、世界の舞台で健闘した。

総合関関戦は 1―4 で惜敗。▽10mAP の森田、川上らの活躍で一矢を報いた。

8月の国民スポーツ大会近畿ブロックに OB で監督の景山、OG の田中、高橋が出場し、見事 SB 三姿勢において景山、高橋が国民スポーツ大会出場を決めた。

9月、JOC ジュニオリンピックカップ▽男子 AP60M（個人）で森田がファイナル6位（本選準優勝）。大舞台で入賞を果たした。

秋関西は男子が総合団体準優勝。▽10mAR60M 団体8位。▽50mR3×20 団体準優勝（長島京平、藤木日向、横井）。▽50mR3×20M（個人）で横井が4位入賞。▽10mAP60M（個人）で森田が1位入賞。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60W 団体7位、▽50m P60PRW（個人）で髙橋が3位入賞。▽10mAP60W（個人）で川上が5位入賞。

全国学生ピストル射撃大会で全国制覇を果たした。▽男子 10mBP60M 団体優勝（松村歩夢、森田、渡部智喜）。▽男子 BP60M（個人）で森田が準優勝。▽女子 10mBP60W 団体3位（川上、浅本、藤田奈々）、▽女子 10m BP60W（個人）で川上が3位、浅本が8位入賞。

第79回国民スポーツ大会滋賀にはOB・現役3人が出場。▽男子 50m3P×20M 予選で景山監督が10位、▽男子 10mAP60M 予選で森田が12位、▽女子 50mR3×20Wで髙橋（550 点）が出場。

全日本スポーツ射撃競技選手権▽男子 10mAP60M（個人）で森田が6位入賞。森田は内田（同志社）、中山（岡山商大）とのチームで▽男子 10mAP60 団体準優勝。優勝は自衛隊、3位は警視庁で、学連チームが大健闘した。

全日本では男子が総合団体出場資格なし。▽10mAR60M 団体19位（横井、長沼、伴）▽50mR3×20M 団体9位（横井、藤木、長島）、▽男子50mR3×20M（個人）で横井、藤木、長島が、▽男子50mR60PRM（個人）で横井、藤木が出場。▽10mAP60M（個人）で森田がファイナル5位（本選3位）入賞。

女子は総合団体出場資格なし。▽10mAR60W団体14位（嶋田、大西、藤田）。▽10mAP60W団体3位（川上、大西）入賞、▽女子10mAP60W（個人）で川上が7位入賞。▽50mR3×20W（個人）、▽50mP60PRW（個人）に髙橋、大西が出場した。

新人戦▽男子 10mBP60M で団体優勝（津禰鹿壮吾、松村、渡部）、▽男子 BP10m60M（個人）で森田が準優勝、松村が7位入賞。森田は▽男子 10mAP60M（個人）でも準優勝した。女子も▽10mBP60W で団体準優勝（福原佳乃、浅本、岡田芽衣）、▽10mBP60W（個人）で浅本が6位入賞した。

覇業交歓では▽那須杯、▽全国団体、▽全国個人（森田、川上）、▽西日本個人（森田）、▽関西団体、▽関西個人（森田）でそれぞれ表彰された。

最後に射撃部 98 年の歴史を顧みて戦中期の一時、射撃競技の変容（訓練中心の戦技競技への変化）はあったものの、戦前の諸先輩方は戦いの具の射撃ではなく真にスポーツとして射撃を愛されていたのは間違いない。学生達の射撃への想いは一度もブレたことはなく、そ

の精神は部創設時より連綿と続いている。私たちは平穏な中で スポーツとして射撃が出来る喜びを感謝し、戦争の犠牲となった先輩方の想いを胸に、二度と射撃を戦争の具にせぬよう肝に命じ、98 年の歴史と伝統をしっかり受け継ぎながら常勝関学を目指し現役・OBG 共々新たな歴史を築き上げればと考えている。

射撃部　部史　編集担当者
　石井信夫（昭和 56 年　商学部）